

=歴史と哲学の県立熊谷図書館=資料案内

# Lib. Letter



埼玉県のマスコットコハト



2009 spring 〔特別改訂版〕

平成21年3月21日 通巻 第15号

編集 発行 埼玉県立熊谷図書館

<http://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

## 紙の宝石 - 蔵書票 (エクスリプリス) の世界 -

書物が今より遙かに貴重で高価だった時代に、その管理のため生まれたであろう蔵書票。愛書家たちは、自分だけの蔵書のしるしとして、さまざまな絵で飾られた美しい蔵書票を作り出し、人々の目を楽しませるようになりました。

今回は、「紙の宝石」とも称される蔵書票の世界をご案内します。



### 蔵書票とは？

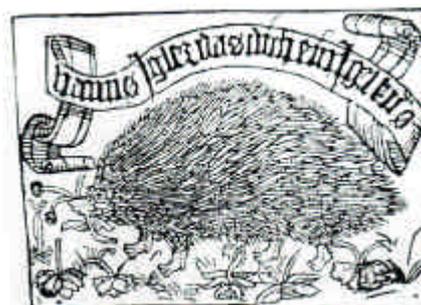
本の見返し(本の表紙を開いた内側の部分)に貼って、その本の持ち主を明らかにするために作られた美術小紙片のことです。原語は、ラテン語の「エクスリプリス(EX LIBRIS)」で、「だれその蔵書の中から」という意味があります。所蔵者の名前と一緒に美しい絵や図案、標語などを入れた紙片を日本では、「蔵書票」「書票」ともいいますが、英語圏では「ブックプレート(bookplate)」と呼ばれていますが、「エクスリプリス」という言葉が、広く国際的に使われています。

### 蔵書票の誕生

蔵書票はいつ誕生したのでしょうか？15世紀にイタリアのエルハルト・ラットールトが木版につけて発行したのが、歴史的には流行の始まりだとされています。一方、現存する最古の蔵書票といわれるものは2つあり、いずれもドイツで制作された木版画です。

ひとつは、制作年の定かでない(1450年か70年頃?)という説があります。)ヨハネス・クナベンスベルクの「ハリネズミの蔵書票」と呼ばれるものです。これは13×19cmの紙に印刷され、口に花をくわえたハリネズミの絵が描かれています。ハリネズミの上のリボンには「私の本を返さなければハリネズミがあなたにキスする」と書かれています。なんともウィットに富んでいますね。

もう一つは、1480年頃の作とされる「楯を支えている天使」の蔵書票で、ヒルデブラント・ブランデンブルク僧侶が修道院に残したものです。ブランデンブルク家を象徴する牛の紋章の楯を持つ天使の上に「カルトゥジオ会のブックスハイム修道院へ寄贈された本である」という意味のことがラテン語で書かれています。この蔵書票はまた、わずかな手彩



ハリネズミの蔵書票



ブックスハイム修道院に残る蔵書票

色ながら、赤・緑・黄・紺の4色刷りになっているのも特徴です。

1445年にグーテンベルクによって活版印刷術が発明されたことで、愛書家や図書館などの蔵書が増加し、それにもなって蔵書票の需要も増大することになります。蔵書票はその後、全ヨーロッパにかなり早い速度で広がりを見せ、それから少し遅れて、新大陸のアメリカへと伝えられました。



ジョージ・ワシントンの蔵書票

## 日本の蔵書印と西洋の蔵書票

日本など東洋圏では、古くから印章が用いられていました。また、和紙・朱肉・墨など、保存力や耐久性に優れた素材を早い時期から使用していたので、西洋風の書物に貼るタイプの蔵書票とは全く異なった「蔵書の所有表示=蔵書印」が発達してきました。日本の書物には和紙を使った和とじの柔らかい本が多かったことも、理由の一つと考えられます。

一方、西洋では紙それ自体が硬く、厚手の表紙をつけた本が作られていたので、蔵書印よりも蔵書票を貼って所有者を示す方法がとられました。



光明皇后の蔵書印

日本での蔵書印の歴史は古く、最初の使用については諸説あるようですが、奈良時代に作られた光明皇后の「積善藤家」の印が、現存する我が国最古の蔵書印だといわれています。これは光明皇后の御筆と伝えられている『杜家立成雑書要略（とかりっせいざっしょようりやく）』という書物に押印されています。



【埼玉県立図書館の蔵書印】

古い本には、この蔵書印があります。

なお、一般に蔵書印には蔵書家の姓（名）や雅号、あるいは文庫名などを記すのが一般的ですが、中には蔵書票のようにメッセージが込められたものもあります。紀州藩士長澤伴雄の「我死ナハウリテ黄金ニカヘナ、ムオヤノ物トテ虫尔ハマスナ 長澤伴雄蔵書記」（「売って金に換える。虫になど食わずな。」）や、市野迷庵の「子孫換酒亦可」（「酒に換えてもよいぞ。」）など、死後の処分について触れたものなどはなかなかユニークなものですね。

## 日本における蔵書票

日本に古くは蔵書票がなかったのかというと、実はそうでもなく、印刷が普及しはじめた室町時代（奇しくも西洋と同じ1470年頃）、京都の醍醐寺光台院の所蔵本に蔵書票が使用されていたことが知られています。ただし、これには文様や絵はなく文字だけを印刷した実用的なものでした。



エミール・オルリックの蔵書票

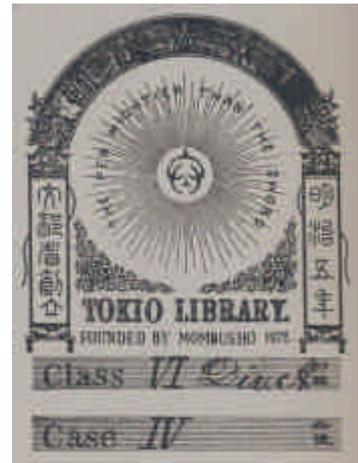
現在のような蔵書票が日本の大衆に向けて初めて紹介されたのは、明治33（1900）年のことです。ヨーロッパから木版画を習いに来日したエミール・オルリックは、自ら制作した4枚の蔵書票を与謝野鉄幹主宰の文芸雑誌『明星』で紹介しまし



醍醐寺光台院蔵票  
（日本最古の蔵書票）

た。異国の香り高い小版画は、当時の作家や文化人、版画家たちを刺激

しました。その後、創作版画の発展とともに多色木版で蔵書票が作られるようになりました。外国ではエッチングと呼ばれる銅版画が多く、黒が主体で、色彩もごくわずかなものが多い中、浮世絵以来の伝統的な手法による日本の多色刷りの蔵書票は欧米の人々の注目を集めるようになりました。



東京書籍館の蔵書票

一方、実はその28年前の明治5(1872)年、西洋の蔵書票かと見紛うようなデザインの蔵書票が日本に現れていました。現在の国立国会図書館の前身に当たる東京書籍館が上野に創立された際、蔵書に貼付されたものがそれです。図面中央の放射線状のデザイン周縁には、英語で“THE PEN MIGHTIER THAN THE SWORD”(ペンは剣よりも強し)と記されています。この銅版画を西洋の影響を受けていない純日本産の蔵書票と考えるのには無理がありますが、大衆に広まるよりはるか前のこの蔵書票が、おそらくは日本における西洋風蔵書票の走りなのでしょう。

【図版】 : 蔵書票の美』樋田直人 小学館 より : 蔵書票の話』斎藤昌三 展望社 より  
: 蔵書票の魅力』樋田直人/著 丸善 より : 斎藤昌三著作集 第一巻』斎藤昌三 八潮書店 より

## 蔵書票の楽しみ

時代を経て、現在も世界のあちこちで蔵書票が作られています。版種も木版画から銅版画、石版画、孔版画、型染とさまざまで、美しく装飾された蔵書票は本に貼るだけでなく、収集の対象にもなっています。個性豊かな蔵書票に裏打ちされた著名人の蔵書は、オークションなどでも取引されてきました。

また、蔵書票の持ち主「票主(ひょうぬし)」は、お互いの蔵書票を交換し合い楽しむことができます。「国際蔵書票連盟(FISAE)」は、蔵書票愛好者の国際的な組織で、海を越えて同好の士の交流を図るとともに世界大会では世界中の蔵書票が展示されます。1992年にはこの大会が札幌で開かれました。国内には1943(昭和18)年に発足した「日本書票協会」があり、東京での全国大会や地方でのフェスタなどが開催されています。

小さな紙片の中に所有者の本に対する愛情がアーティストたちの多彩な表現によって示される蔵書票。見るもよし、集めるもよし、自分で作ってもよし、楽しみ方はあなた次第です。



## より詳しく知りたい方へ ~ 県立熊谷図書館にある蔵書票について書かれた資料 ~

### 【図書】

- ・ 斎藤昌三著作集 第1巻 蔵書票とその歴史』後藤憲二/編 八潮書店 1980 (公開 020.8/サ)
- ・ 蔵書票の話』斎藤昌三/著 展望社 1930 (書庫 024/Sa25)
- ・ 西洋の蔵書票』内田市五郎/著 日本古書通信社 1992 (書庫 024/U14)
- ・ 啓掛コレクション - 蔵書票 - 』八潮書店 1982 (書庫 024/Y61)
- ・ 図説 書票の世界 - デュラーから武井武雄まで - 』つくし館 1985 (書庫 024/Ta69)
- ・ 西洋の蔵書票 - バイロスとアールヌーヴォー』内田市五郎/編著 岩崎美術社 1984 (書庫 024.5/ウ)
- ・ 現代 書票 情報事典』内田市五郎 中井昇/編著 つくし館 1989 (公開 024.5/ケ)
- ・ 書票で楽しむ』田中 薫/著 さきたま出版会 1993 (公開 024.5/シ)

- ・『書票を楽しむ』土屋文男 / 著 北海道新聞社 1992 (公開 024.5/シ)
- ・『蔵書票の魅力 - 本を愛する人のために - 』樋田直人 / 著 丸善 1992 (公開 024.5/ソ)
- ・『蔵書票の美』樋田直人 / 著 小学館 1986 (公開 024.5/ソ)
- ・『日本の書票』海野弘 / 【ほか】共著 日本書票協会 / 編 文化出版局 1982 (公開 024.5/ニ)
- ・『書物愛 蔵書票の世界』日本書票協会 / 編著 平凡社 2002 (公開 024.9/シ)
- ・『エクス・リプリス 和の蔵書票コレクション』小槌義雄 / 監修・コレクション ピエ・ブックス 2005  
(公開 024.9/イ)
- ・『蔵書票の芸術』樋田直人 / 著 淡交社 1997 (公開 024.9/ソ)
- ・『現代日本の書票 現代日本の書票展 開催記念図録』日本書票協会 / 編 文化出版局 1978  
(書庫 R024.5/ケ) \*

### 【雑誌記事】

- ・特集 紙片に描く所有者のしるし【蔵書票】で愛読書を飾る」雑誌 『ライ』 2001年3月15日号』 \*
- ・『作って貼る 蔵書票の愉しみ』 雑誌 『東京人』 2003年3月号』 \*
- ・『黄金期の西洋蔵書票』 クリス・パーフィット 雑誌 『学燈』 93巻10号』 1996.10 \*
- ・『西洋の作家と蔵書票』 内田市五郎 雑誌 『学燈』 94巻3号』 1997.3 \*
- ・『最近の蔵書票の傾向』 内田市五郎 雑誌 『日本古書通信』 950号』 2008.9
- ・『この版画は本物？偽物？ 本に刷り込まれた蔵書票』 田中栞 雑誌 『あうる』 82号』 2008.4 5
- ・『「蔵書票の話」の謎 誤植のある装丁』 田中栞 雑誌 『あうる』 83号』 2008.6 7
- ・『本の宝石 = 蔵書票 本の見返しに貼付する方寸の世界』 石垣香津 雑誌 『LISN 115』 2003.6 \*

### 【個人蔵書票の作品集】

- ・『方寸の昼夜 岩佐なを銅版画蔵書票作品集』岩崎美術社 1992.8 (書庫 024.5/イ)
- ・『蒲地清爾書票作品集 (東京国際書票美術館 1)』つくし館 1990.3 (書庫 024/Ka31)
- ・『桐村茜書票作品集 (東京国際書票美術館 4)』つくし館 1990.7 (書庫 024/Ki53)
- ・『坂東壮一書票作品集 (東京国際書票美術館 6)』つくし館 1991.2 (書庫 024/B18)

紹介した資料の( )内は請求記号です。 \*が付いている資料は館内利用となります。

## 資料展示のお知らせ

### 資料展示【蔵書票の世界】を開催しています。

期間：2月28日(土)～5月21日(木) (展示協力：日本書票協会)

場所：埼玉県立熊谷図書館 2F 展示コーナー

蔵書票の実物をパネル展示しています。ぜひご覧ください。

#### 【特別展予告】

5月は1F集会室にて、特別展を行います。

期間：5月15日(金)～5月21日(木)

蔵書票のパネルを一挙に20枚以上展示します。

5月17日(日)には、日本書票協会の会長・内田市五郎氏も来館の予定です。

### 後記

今回は、2階展示コーナーでの蔵書票展示にあわせ、『Lb. Letter』11号を一部改訂して発行いたしました。旧号と内容が重複する点がありますが、ご了承ください。  
(『Lb. Letter』編集担当)